別記様式第3

令和4年2月21日

研究科長 殿

審査委員

主査　坂井友実　㊞

副査　安野富美子　㊞

副査　家吉望み　㊞

学 位 論 文 審 査 報 告 書

学位申請者	保健医療学研究科　保健医療学　専攻 令和　元年度入学　　氏名　木村葉子	学籍番号	5219001
申請学位	博士（鍼灸学）		
学位論文題目	妊婦のマイナートラブルに対する温灸療法の効果		
成績	合格		
審査期日	令和　4 年 2月 14日　～　2月 21日		

注 1　論文審査の成績は、合格又は不合格とする。
　 2　学位論文審査要旨を添付すること。

別記様式第4

学 位 論 文 審 査 要 旨

審査委員

主査　坂井友実　㊞

副査　安野富美子　㊞

副査　家吉望み　㊞

学位論文提出者　保健医療学研究科　保健医療学　専攻

令和　元年度入学

氏名　木 村 葉 子

学位論文題目　妊婦のマイナートラブルに対する温灸療法の効果

学位論文審査の要旨

本研究は、産婦人科医療において妊婦自身が実践するセルフケアによる温灸の効果を検証する臨床研究である。

研究参加者は、正常な妊娠経過を辿る妊婦で、温灸群と対照(非施灸)群を設定し、準ランダム化比較試験により検討した。温灸群は、セルフケアで妊娠24週から分娩直前まで「三陰交」を基本とし、妊娠週数と個々の症状に応じて施灸数と下肢の経穴を追加した。温灸は台座付き間接灸を用いた。メインアウトカムは、マイナートラブル19症状の苦痛度（症状の発症頻度と程度の積）、セカンダリーアウトカムは、SF-36によるQOLとし、評価時期は、①妊娠16～24週、②28～29週、③32～33週、④37～38週の全4回とした。　苦痛度は症状の発症頻度と程度の積から算出した。両群の苦痛度及び発症頻度、程度、発症率、QOL(SF-36) における時間経過による違いについては、多変量反復測定分散分析(MANOVA)を行い、各時期の違いについてはSteelの検定を行った。

分析対象は、初産婦温灸群117例、対照群80例で、全19症状の苦痛度総和と程度において、群間と時間の交互作用に有意差が認められた。対照群では高値に変化したが、温灸群は増加がみられず、症状別では「こむら返り」の苦痛度が、対照群に比し温灸群が有意に低値であった。また、 SF-36下位尺度の身体機能と身体的側面のQOLサマリースコアが対照群に比し、温灸群が有意に高値であった。温灸群の有害事象は、一過性で医療的処置は必要ではなかった。

以上、本論文は、温灸によるセルフケアは、妊婦のマイナートラブルを軽減し、QOLの低下を防ぎ、妊婦のマイナートラブル対策の選択肢の一つとして有効であることを明らかにしたもので、周産期領域における臨床鍼灸学を応用する上で基盤となる論文であり、鍼灸学に貢献するものである。よって本論文は、鍼灸学博士の学位に値するものと認める。